

宮崎県拠点のWebサイトはこちらから



宮崎県拠点だより

環境負荷低減の クロスコンプライアンス



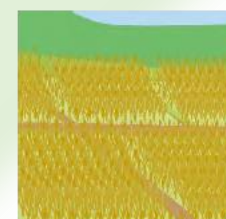
<各種支援>



機械導入



施設整備



増産

令和5年6月に食料安定供給・農林水産業基盤強化本部で決定された「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」では、「みどりの食料システム法」（令和4年7月施行）に基づいた取組の促進を基本としながら、最低限行うべき環境負荷低減の取組を明らかにし、各種支援の実施に当たっても、そのことが環境に負荷を与えることにならないように配慮していくこと等に取り組むこととされています。

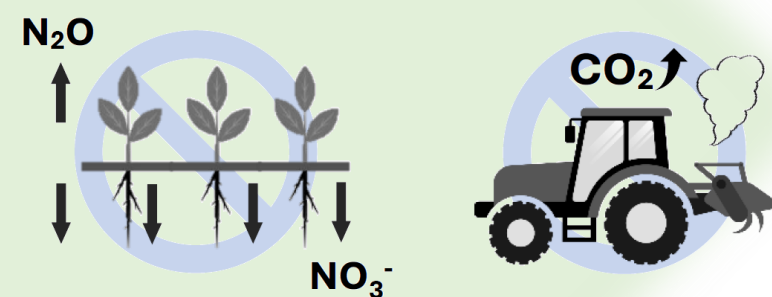
各種支援に当たり、**環境負荷低減の最低限の取組を要件化（＝クロスコンプライアンス）**

これを踏まえ、農林水産省の各種補助事業等について、**最低限行うべき環境負荷低減の取組の実践を求める「クロスコンプライアンス」を実施すること**としており、令和6年度から、その試行実施を行います。

環境にやさしく
生産性も高い農業へ！

九州農政局は、令和6年2月8日「環境負荷低減のクロスコンプライアンスの導入及び令和6年度みどりの食料システム戦略関連予算の概要に係る九州・沖縄ブロック説明会」を熊本市で開催し、現場の皆様に向けて説明を行います。

新たな環境負荷を生じさせないように配慮



○農林漁業に由来する環境負荷に総合的に配慮するための基本的な7つの取組



適正な施肥

例) ・肥料の使用状況の記録・保存
・作物の生育や土壌養分に応じた施肥 等



適正な防除

・農薬の使用状況の記録・保存
・農薬ラベルの確認・遵守、農薬の飛散防止 等



エネルギーの節減

・電気・燃料の使用状況の記録・保存 等



悪臭・害虫の発生防止

・家畜排せつ物の適正な管理 等



廃棄物の発生抑制
循環利用・適正処分

・プラスチック製廃棄物の削減や適正処理 等



生物多様性への悪影響の防止

・病害虫の発生状況に応じた防除の実施 等



環境関係法令の遵守等

・営農時に必要な法令の遵守
・農作業安全に配慮した作業環境の改善 等

農林水産省のホームページはこちらから



環境負荷低減のクロスコンプライアンスの チェックシートで、
環境にやさしい取組をはじめましょう！

令和9年度を目標に「クロスコンプライアンス」を本格実施することとし、令和6年度は事業申請時のチェックシート提出に限定し試行実施を行います。

みどり戦略

子育て世代と意見交換



意見交換の様子

令和6年1月12日、宮崎県拠点では、みどり戦略を子育て世代に自分ごととして捉えてもらうため、「子育てネットワークみやざき(宮崎県内で子育て支援等の活動をしている団体・個人)」の会員21名との意見交換を行いました。

参加者からは、「農産物の購入の際に気にかけていること」、「環境負荷低減の表示」等について、活発な意見が出されました。

ノウフク&グリーン

W受賞!



株式会社杉本商店（宮崎県高千穂町）が、「ノウフク・アワード2023」フレッシュ賞と「第24回グリーン購入大賞」農林水産大臣賞を受賞しました。

「ノウフク・アワード」は、農福連携に取り組んでいる優れた事例を表彰するもので、「グリーン購入大賞」は、グリーン購入の普及・拡大に取り組む団体を表彰するものです。



受賞を喜ぶ杉本さんたち

- 「農福連携」は、障がい者の皆さんに、自信や生きがいを持って社会に参画していただき、担い手不足や高齢化が進む農林水産業において、働き手の確保や共生社会の実現を目指す取組です。
- 「グリーン購入」は、購入者が環境や社会に配慮した製品やサービスを環境負荷低減と社会的責任の遂行に努める事業者から優先的に購入する取組です。

「つなぐ棚田遺産」感謝状贈呈!

「つなぐ棚田遺産」感謝状贈呈式



左：五ヶ瀬自然学校 杉田理事長
右：宮崎県中山間農業振興室 梶原室長

令和6年1月26日、棚田地域の振興等に貢献する優れた取組を実施する企業等に感謝の気持ちを伝える、令和5年度「つなぐ棚田遺産※」感謝状贈呈式が行われました。

全国で23の企業等が選定され、宮崎県からは、五ヶ瀬町の「日蔭棚田」及び「鳥の巣棚田」において、集落と共同で耕作放棄地の再生、イベント企画や販促活動に取り組み、地域活性化や棚田景観の維持に貢献されている特定非営利活動法人 五ヶ瀬自然学校が「人と人をつなぐ」部門に選定されました。

※令和4年3月に全国271の棚田を農林水産大臣が認定

- 本紙の記載内容や農政についてのご質問、ご意見等お気軽にお問い合わせ下さい。

- 宮崎県拠点 地方参事官室
TEL 0985 - 24 - 2365
〒880-0801 宮崎市老松2丁目3-17

編集後記

今年は、大地震が能登半島を襲うというショッキングな出来事から幕を開け、今なお多くの被災者の方々が避難所での生活を強いられています。私が平成28年に熊本地震で被災した際には、能登地方を含めた全国各地からの支援のおかげで再び生活できるようになりました。今回は、遠い宮崎の地から義援金等を通じて、少しでも能登地方の復興に貢献していきたいと思っております。(J)